ト 襄十六〇十九　耳一〇十五、二〇一
チ 襄十三〇六　耳一〇十五、二〇一
リ 申廿二〇四十二　襄廿四〇六　番一〇七　結廿九〇十七
ヌ 襄廿四〇六　番一〇七　結廿九〇十七
ル 寧四十七〇一　耶八〇廿二、五十一〇八
ヲ 結廿〇廿一
ワ 結廿〇廿一
カ 襄十九〇一　耶四十三〇十二、十三　結廿九〇廿〇廿二〇
ヨ 耶四十六〇三、四
タ 耶四十六〇十
レ 利廿六〇廿七
ソ 襄四十七〇四、四十八〇二　耶四十八〇十五
ツ 耶四十八〇十八　襄廿〇四
ネ 何十〇十一　ヨ 耶一〇十四、四十七〇二、四十九〇六、十一　結廿九〇廿〇廿二〇
ム 詩廿七〇十三　耶五十〇廿七
ウ 襄廿九〇四
ヰ 襄十〇廿四　士六〇五十七
ノ 士六〇五十七
オ 耶一〇十五

い河のごとくに逆まくなり而していふ我上りて地を蔽ひ邑とその中に住る者とを滅さん　九 汝等馬に乘り車を驅馳らせよ勇士よ盾を執るエテオピア人プテ人および弓を張り挽くルデ人よ進みいづべし　十 此い主なる萬軍のエホバの復仇の日即ちその敵に仇を復したまふ日なり劍い食ひて飽きその血に醉はん主なる萬軍のエホバ北の地にてユフラテ河の旁に宰ることをなしたまへばなり　十一 處女よエジプトの女よギレアデに上りて乳香を取れ汝多の藥を用うるも益なし汝い愈ざるべし　十二 汝の恥辱い國々にきこえん汝の號泣い地に滿り勇士い勇士にうち觸てともに仆る○　十三 バビロンの王ネブカデネザルが來りてエジプトの地を擊んとする事につきてエホバの預言者エレミヤに告たまひし言　十四 汝らエジプトに宣べミグドルに示し又ノフ、タパネスに示しいふべし汝ら堅く立て自ら備よ劍なんぢの四周を食ひたればなり　十五 汝の力ある者いかにして拂ひ除れしやうの立ざるいエホバこれを仆したまふに由るなり　十六 彼多の者を躓かせたまふ人其友の上に仆れかさなり而していふ起よ我ら滅ぼすところの劍を避てわが國にかへり故土にいたらんと　十七 人彼處に叫びてエジプトの王パロい滅されたり彼い機會を失へりといふ　十八 萬軍のエホバと名りたまふところの王いひたまふ我い活く彼い山々の中のタボルのごとく海の旁のカルメルのごとくに來らん　十九 エジプトに住る女よ汝移轉の器皿を備へよろいノフい荒蕪となり燒れて住む人なきにいたるべければなり　二十 エジプトい至美き牝の犢のごとし斃虻きたり北の方より來る　二一 また其中の傭人い肥たる犢のごとし彼ら轉向てともに逃げ立てとをせず是うの滅さる〻日いたり其罰せらる〻時來りたればあり　二二 彼い蛇のごとく聲をいだす彼ら軍勢を擧て來り樵夫の如く斧をもて之にのぞめり　二三 エホバいひたまふ彼らい探りえざるに由りて彼の林を砍仆せり彼等い蝗蟲よりも多して數へがたし　二四 エジプトの女い辱められ北の民の手に付されん　二五 萬軍のエホバイスラエルの神いひたまふ視よわれノフのアモンとパロとエジプトとその諸神とその王等すなはちパロとかれを賴むものとを罰せん　二六 われ彼らを其生命を索る者の手とバビロンの王ネブカデネザルの手とその臣僕の手に付すべしその後この地い昔のおとく人の住ところとならんとエホバいひたまふ○　二七 我僕ヤコブよ怖るゝ勿れイスラエルよ驚く勿れ視よわれ汝を遠方より救ひきたり汝の子孫をその擄移されたる地より救ひとるべしヤコブい歸りて平安と寧靜をえん彼を異れ恐むる者なかるべし　二八 エホバいひたまふ我僕ヤコブよ汝怖るゝ勿れ我汝と偕にあればあり我汝を逐やりし國々を悉く滅すべければ汝をば悉く滅さじわれ道をもて汝を懲し汝を全くい罪なき者とせざるべし

第四十七章

一 パロがガザを擊ざりし先ホベリシテ人の事につきて預言者エレミヤに臨みしエホバの言　二 エホバかくいひたまふ視よ水北より起り溢れなだれて此地と其中の諸の物とその邑と其中に住る者とを溢れかゝるべしその時人衆い叫びその地に住る者い皆哭くべし　三 その逞しき馬の蹄の蹴たつる音のため其車の響のため其輪の轟のために父い手弱りて己の子女を顧ざるあり　四 是ペリシテ人を滅しつくしツロとシドンわのこりて助力をおす者を悉く絶す日來ればあり エホバカフトルの地わ遺れるペリシテ人を滅したまふべし　五 ガザわい髮を剃るの事はじまるアシケロンと其剩餘の平地い滅ぼさる汝いつまで身に傷くるや　六 エホバの劍よ汝いつまで息ざるや汝の鞘に歸りて息み靜れ　七 エホバこれに命じたるあればいかで息むことをえんやアシケロンと海邊を攻ることを定めたまへり

第四十八章

一 萬軍のエホバイスラエルの神モアブの事につきてかくいひたまふ嗚呼手ボい禰なるかあ是滅されたりキリアタイムい辱められて取ゑミスガブい辱められて毀たるモアブの榮譽い失さりぬ

ク 結廿〇十四、十五、十六　箴三〇八
ヤ 耶四十三〇十二、十三　結廿〇十三
マ 耶四十四〇廿　結廿二〇十一
ケ 結廿九〇十一、十三、十四
フ 襄四十一〇十三、十四、十三〇五、四十四〇二　耶廿〇十一
コ 耶十〇廿四、廿〇十一
イ 歷一〇六、七、八　ロ 耶廿五〇廿　結廿五〇十六　歷二〇八、九〇七　リ 歷一〇七　番一〇十六　番二〇四、七　ヌ 耶廿五〇廿　ル 耶十六〇六、四十一〇五、四十八〇廿七　ヲ 結廿五〇十一　チ 申廿二〇四十一　結廿二〇三、四、五　ワ 結廿四〇十七　カ 番二〇十六　ヨ 耶廿五〇廿一、廿七〇三　結廿五〇九　歷二〇一、二　ロ 民廿二〇廿八、卅三〇四十　ハ 襄十五〇二　ニ 襄十六〇廿四
ヘ 耶廿五〇廿二　ト 創十〇廿　チ 結廿五〇十六　歷一〇八、九〇七　リ 歷一〇七　番一〇十六　番二〇四、七　ヌ 耶廿五〇廿　ル 耶十六〇六、四十一〇五、四十八〇廿七　ヲ 結廿五〇十一　ワ 結廿四〇十七　カ 番二〇十六　イ 襄十五〇九　ロ 民廿二〇廿八、卅三〇四十　ハ 襄十五〇二　ニ 襄十六〇廿四

ホ 賽十五〇四
ヘ 耶四十八〇五
ト 賽十五〇五
チ 耶五十一〇六
リ 耶十七〇六
ヌ 民廿一〇廿九　士十一〇廿四　賽四十六〇二　四十三〇十二
ル 耶四十九〇三
チ 詩五十五〇六　耶四十八〇十八
ワ 民廿一〇卅　賽十五〇二廿八
カ 士十五〇廿三　伯上十五〇三九　王上廿〇四十二
ヨ 番一〇十二
タ 士十一〇廿四　王上十一〇七
レ 王上十二〇廿九
ソ 何十〇六
ツ 賽十六〇六
子 耶四十八〇八、九、十八
チ 耶五十〇廿七
ヲ 耶四十六〇十八、五十一〇五十七
ム 賽九〇四、十四〇四、五
ウ 民廿一〇卅　賽十五〇二
井 賽四十七〇一　耶四十六〇十九
ノ 耶四十八〇八
オ 申二〇廿六
ク 伯上四〇十三、十六
ヤ 賽十六〇七
マ 民廿一〇十三
ケ 耶四十八〇八

ヘシボンにて人衆モアブの害を謀り去來之を絶て國をなさゞらしめんといふマデメンよ汝い滅されん劍汝を追はん　ホロナイムより號咷の聲きこゆ毀敗と大なる滅亡あり　四モアブ滅されてろの嬰孩等の號咷聞ゆ　五彼らい哭き哭きてルヒテの坂を登る、敵いホロナイムの下り路にて滅亡の號咷をきけり　六逃て汝らの生命を救へ曠野に棄られたる者の如くなれ　七汝い汝の工作と財寶を賴むゆよりて汝も執へらるゝん又ケモシい其祭司およびろの牧伯等と偕ゐ擄へうつさるべし　八殘害者諸の邑に來らん一の邑も免をさるべし谷い滅され平地い荒されんエホバのいひたまひしが如し　九翼をモアブに予へて飛さらしむ其諸邑い荒て住者なからん　十エホバの事を行ふて怠る者い詛はれ又ろの劍をおさへて血を流さゞる者い詛はる○　十一モアブいろの幼時より安然にして酒の其滓のうへにとゞまりて此器よりかの器に斟うつされざるが如くおりき彼據うつされざりしお由て其味尚存ちろの香氣變らざるなり　十二エホバいひたまふ此故にわごれを傾くる者を遣す日來らん彼らすおもち之を傾け其器をおけ其罈を碎くべし　十三モアブいケモシのために羞をとらん是イスラエルの家がろの恃めるところのベテルのために羞をとりしが如くなるべし○　十四汝ら何ぞ我らい勇士なり強き軍人なりといふや　十五モアブいほろぼされ其邑ろの諸邑い臆りろの選擇の壯者いくだり下て殺さる萬軍のエホバと名る王こをいひたまふ　十六モアブの滅亡近けりろの禍速に來る　十七凡り其四周にある者よ彼のために歎けうの名を知る者よ強き竿美き杖いかにして折しやといへ○　十八デポンお住る女よ榮をはおれて下り燥ける地お坐せよモアブを敗る者汝にきたりて汝の城を滅さん　十九アロエルお住る婦よ道の側にたちて闚ひ逃きたる者と脫れいたる者お事いかんと問へ　二十モアブい敗れて羞をとる汝ら呼はり哭びモアブい滅されたりとアルノンお告よ　二一鞫罰平地お臨みホロンヤハズメパアテデポンテボベテデブラタイム　二二キリヤタイムベテガムルベテメオン　二三ケリオテボヅラモアブの地の諸邑の遠き者にも近き者おも臨めり　二四モアブの角い碎け其臂い折たりとエホバいひたまふ○　二五汝らモアブを醉はしめよ彼ヱホバにむかひて驕傲をゞなりモアブい其吐たる物に轉びて笑柄とおらん　二六イスラエルい汝の笑柄にあらざりしや彼盜人の中にありしや汝彼の事を語るごとに首を搖たり　二七モアブに住る者よ汝ら邑を離をて磐の間にすめ穴の口の側に巢を作る鴿のごとくせよ　二八われらモアブの驕傲をきけり其驕傲い甚し即ち其驕慢矜高驕誇およびろの心の自ら高くするを聞り　二九エホバいひたまふ我モアブの驕傲とろの言の虛きことを知る彼らい僞を行ふあり○　三〇この故にわれモアブの爲に哭びモアブの全地の爲に呼さるキルハレスの人々の爲お嘆歎あり　三一シブマの葡萄の樹よわれヤゼルの哭泣おこえて汝の爲に哭ぐべし汝の蔓い海を踰之延てヤゼルの海おまでいたる掠奪者來りて汝の果と葡萄をとらん　三二欣喜と歡樂園とモアブの地をとなき去る我酒醡に酒無らしめん呼とりて葡萄を踐もの無るべし其呼喚い葡萄をふむ喚呼おあらざらん　三三ヘシボンよりエレアレとヤハツにいたりゾアルよりホロナイムとエグラテシリシヤおいたるまで人聲を揚ぐろい ニムリムの水までも絕たれびおり　三四エホバいひたまふ我祭物を崇邱に獻げ香をろの諸神に焚くところの者をモアブの中お滅さんと　三五この故に我心いモアブの爲に簫のごとく歎き我心いキルハレスの人衆のために簫のごとく歎く是其獲たるところの財うせたをびなり　三六人みなろの髮を剃り皆ろの鬚をそろり皆ろの手に傷け腰に麻布をまとをん　三七モアブにてい家蓋の上と衢のうちに遍く悲哀おりろいわを心に適さる器のごとくにモアブを碎きたれバおりとエホバいひたまふ　三八嗚呼モアブいほろびたり彼らい吼ぶ嗚呼モアブい羞て面を背けたりモアブいろの四周の者の笑柄となり恐懼となをり　三九エホバかくいひたまふ視よ敵鷲のごとく翔て翼をモアブの上にひろげん　四〇ケリオテ攻取られ保障ところ攻陷らん其日にはモアブの勇士の心婦人の心のごとくなるべし　四一モアブ滅されて民となざるべし其エホバにむかひて誇傲をゞなり　四二モアブよ恐懼と陷穽と羅網とお汝の上に臨ません　四三恐懼を避る者い陷穽に陷り陷穽より上る者い羅網に罹らん我モアブの上にこの事を臨ません其時至らん　四四エホバいひたまふ逃る者い力なくして陷穽に立ち陷穽より上る者い羅網に罹らん我モアブの上にモアブの罰せらるゝ年を臨ません　四五ヘシボンの逃者い勢なくして立ちヘシボンの中より火いでシホンの中より焰いでモアブの隅とさわがしき者の頂骨とを燒ほろぼさん　四六モアブよ禍なるかなケモシの民ほろびたり汝の男子い擄へゆかれ汝の女子い擄へうつされたればなり　四七エホバいひたまふ然ど末の日にいたりてわモアブの擄へうつされたるものを返さんとエホバいひたまふモアブの審判ここまでなり

フ 耶四十八〇四十一　歴二〇二
コ 詩七十五〇十
エ 結廿〇廿一　申廿五〇十五、廿七
デ 耶廿五〇十五、廿七
ア 番二〇八
サ 耶二〇廿六
キ 耶五十五〇六、七　耶四十八〇九
ユ 歴二〇十四
メ 賽十六〇六
ミ 賽十六〇六　耶五十〇卅六
シ 賽十五　五、十六〇七、十一
エ 賽十六〇八、九
ヒ 賽十六〇十　耳二〇十二
モ 賽十五〇四、五、六　賽十五〇五、六　耶四十八〇五
ホ 耶廿二〇廿八

ヘ 甲十八〇四十九、耶四十九〇廿二、但七〇四、何八〇一、哈一〇八
ト 賽八〇八
チ 耶四十八〇廿四
リ 賽十三〇八、廿一〇三、耶廿〇六、四十九〇廿二、廿四、代下二十一〇廿、耶五〇廿九、五十一〇廿、來四〇九
ヌ 詩八十三〇四、賽七〇八
ル 賽廿四〇十七、十八
ヲ 耶十一〇廿三
ワ 民廿一〇廿八
カ 民廿四〇十七
ヨ 民廿一〇廿九
タ 耶四十九〇六、廿九
イ 結廿一〇廿八、廿五〇二、歷二〇八、九
ロ 歷二〇十三
ハ 結廿五〇五、歷二〇十四
ニ 賽廿二〇十一、耶四〇八、六〇廿六
ホ 王上十一〇五、廿三
ヘ 耶四十八〇七、歷二〇十五
ト 耶三〇十四、七〇廿四
チ 耶廿一〇十三

ひたまふ視よ敵鷲のごとくに飛來りて翼をモアブのうへに舒ん　ケリオテ 一 取ちを城いみな奪はるうの日にいモアブの勇士の心子を産む婦のごとくになるべし　二 モアブ いエホバにむかひて傲りしゆゑに滅ぼされて再び國を成ざるべし　三 エホバいひたまふモアブにすめる者よ恐怖と陷阱と罟おんぢに臨めり　四 恐怖をさけて逃るものい陷阱におちいり陷阱より出るものい罟にとらへらをん其いわをモアブにろの罰をうくべき年をのぞましむをべなりエホバこをいふ　五 遁逃者い力なくしてヘシボンの蔭に立つ是い火へシボンより出で火焰シホンのうちより出てモアブの地おょび喧鬧をなす者の首の頂を燒べなり　六 嗚呼禍あるかなモアブよケモシの民い亡びたり即ち汝の諸子い擄へうつさを汝の女等い執へゆかをたり　七 然どす末の日に我モアブの擄移されたる者を返さんとエホバいひたまふ此までいモアブの鞫をいへる言なり

第四十九章

一 アンモン人の事につきてエホバかくいひたまふイスラエルに子なからんや嗣子おからんや何ゆゑにマルカムい彼らの王ガドを受嗣ぎ彼の民うの邑々に住や　二 エホバいひたまふ是故に視よわご戰鬪の號呼をアンモン人のラバに聞えおむる日いたらんラバい荒墟とおりうの女等い火に焚れんうの時イスラエルいおのれの嗣者とおりし者等の嗣者とおるべしエホバこれをいひたまふ　三 ヘシボンよ哭べアイい滅びたりラバの女たちよ呼れ麻布を身にまとひ嗟て籬のうちに走れマルカムとうの祭司おょびその牧伯等い偕に擄へ移されたり　四 汝何おをべ谷の事を誇るや背ける女よ汝の谷い流るるおり汝財貨に倚賴ていふ誰か我に來らんやと　五 主ある萬軍のエホバいひたまふ視よ我畏懼を汝の四周の者より汝に來らしめん汝らおの〳〵逐をて直にすゝまん逃る者を集る人無るべし　六 然ど後にいたりてわれアンモン人の擄移されたる者を返さんとエホバいひたまふ〇　七 エドムの事につきて萬軍のエホバかくいひたまふテマンの中に智慧あることなきにいたりしや明哲者にい謀窮おらずなりしやうの智慧い盡はてしや　八 デダンに住る者よ逃よ遁れよ深く竄れよ我エサウの滅亡をかれの上にのろませ彼を罰する時をきたらしむべし　九 葡萄を斂む者もし汝に來らべ少許の果をも餘さざらんもし夜間盜人きたらばうの飽まで滅さん　十 われエサウを裸にし又うの隱處を露にせん彼い身を匿すことをえざるべしうの裔も兄弟も隣舍も滅されん而して彼い在ずおるべし　十一 汝の孤子を遺せわを之を生存へしめん汝の寡い我に倚賴むべし　十二 エホバかくいひたまふ視よ杯を飮べきにあらざる者もこれを飮ざるをえざるおれば汝まつたく罰を免るることをえんや汝い罰を免れじ汝こをを飮ざるべからず　十三 エホバいひたまふ我おのれを指して誓ふボズラい詫異とおり羞辱とおり荒地となり呪詛とおらんうの諸邑い永く荒地となるべし〇　十四 われエホバより音信をきけり使者つかはされて萬國にいたり汝ら集りて彼に攻めきたり起て戰へよといへり　十五 視よわれ汝を萬國の中に小者とおし人々の中に藐めらるゝ者とおせり　十六 磐の隱場にすみ山の高處を占る者よ汝の恐ろしき事と汝の心の驕傲汝を欺けり汝鷲のごとくに巢を高き處に作りたれどもわれ其處より汝を取り下さんとエホバいひたまふ　十七 エドムい詫異とならん凡ろ其處を過る者い驚きうの災害のために笑ふべし　十八 エホバいひたまふソドムとゴモラとうの隣の邑々の滅しがごとく其處に住む人おく其處に宿る人の子おかかるべし〇　十九 視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るがごとく堅き宅に攻めきたらんわれ直ぉ彼を其處より逐奔らせわが選みたる者をうの上に立ん誰か我のごとき者あらん誰か我爲に時期を定めんや孰の牧者か我前おたつことをえん　二十 されバエドムにつきてエホバの謀りたまひし御謀とテマンに住る者につきて思ひたまひし思をきけ群の弱者いかならず曳ゆかれん彼かあらずかれらの住居を滅すべし　二一 うの傾圮の響によりて地い

ル 阿八
ヲ 耶十九〇十二
ワ 耶廿五〇廿三
カ 耶四十九〇廿
ヨ 阿五
タ 馬一〇三
レ 賽十七〇十四
ソ 耶廿五〇十九、阿十六
ツ 創廿二〇十六、賽四十五〇廿三、歷九〇八
ネ 賽廿四〇六、六十三〇一
ナ 阿二、三
ラ 俏卅九〇廿七
ム 阿四
ウ 歷九〇二
ヰ 耶十八〇十六、五十〇十三
ノ 創十九〇廿五、申廿九〇廿三、耶五十〇四十、歷四〇十一
オ 耶八十〇四十四
ク 耶十二〇五
ヤ 出十五〇十一
マ 俏四十一〇十
ケ 耶五十〇四十五
フ 耶五十〇四十六

震ふ號咷あり ̄ろの聲紅海にきこゆ
二二 みよ彼鷲のごとくに上り飛びて ̄ろの翼をボズラの上に舒べ ̄んろの日エドムの勇士の心い子を產む婦の心の如くならん○
二三 ダマスコの事、ハマテとアルパデい羞づろは凶き音信をきけばなり彼らい心を喪へり海の上に恐懼あり安き者なし
二四 ダマスコい弱り身をめぐらして逃んとす恐懼これお及び憂愁と痛劬子を產む婦にあるごとくこれおおよぶ
二五 頌美ある邑我欣ぶところの邑を何なれば棄さらざるや
二六 されば ̄ろの日い壯者い街に仆れ兵卒い悉く滅されんと萬軍のエホバいひたまふ
二七 われ火をダマスコの石垣の上に燃しベヂハダデの殿舍をことごとく焚くべし○
二八 バビロンの王ヂブカデヂザルぞの攻め擊たるケダルとハゾルの諸國の事につきてエホバかくいひたまふ汝ら起てケダルに上り東の衆人を滅せ
二九 ろの幕屋とろの羊の群い彼等これを取りろの幕とろの諸の器と駱駝とい彼等これを奪ひとらん人これに向ひ惶懼四方にありと呼るべし
三十 エホバいひたまふハゾルに住る者よ逃よ急に走りゆき深き處に居れバビロンの王ヂブカデヂザル汝らをせむる謀畧を運らし汝らをせむる術計を設けたれば
三一 エホバいひたまふ汝ら起て穩なる安かお住る民の所に攻め上れ彼らい門もなく閂もなくして獨り居ふあり
三二 ろの駱駝い擄掠とせられ ̄ろの多の畜と奪われん我かの毛の角を剪る者を四方に散しろの滅亡を八方より來らせんとエホバいひたまふ
三三 ハゾルい山犬の窟とあり何までも荒蕪となりをらん彼處に住む人なく彼處に宿る人の子あかるべし○
三四 ユダの王ゼデキヤが位に卽し初のころエホバの言預言者エレミヤに臨てエラムの事をいふ
三五 萬軍のエホバかくいひたまふ視よわれエラムが權能として賴むところの弓を折らん
三六 われ天の四方より四方の風をエラムに來らせ彼らを四方の風に散らさんエラムより退出さるる者のいたらざる國いなかるべし
三七 エホバいひたまふわれエラムをしてうの敵の前ところの生命を索むるもの ̄ろ前に懼れしめんわれ災をくだし我烈しき怒をうの上にいたらせんまたわれ劍をうの後につかはしてこれを滅し盡すべし
三八 われ我位をエラムに居ゑ王と牧伯等を其處より滅したゝんとエホバいひたまふ
三九 然ど末の日にいたりてわれエラムの擄移されたる者を返すべしとエホバいひたまふ

第五十章

一 エホバ預言者エレミヤおよりてバビロンとカルデア人の地のことを語りたまひし言
二 汝ら國々の中お告げまた宣示せ纛を樹よ隱すことなく宣示して言へバビロンい取れベルい辱められメロダクい碎かれうの像は辱められうの木像い碎かると
三 うた北の方より一の國人きたりて之を攻めうの地を荒して其處お住む者無らしむればあり人も畜も皆逃去れり
四 エホバいひたまふうの日うの時イスラエルの子孫かへり來らんユダの子孫かへり來るべし彼らい哭きつゝ行てうの神エホバに請求むべし
五 彼ら面をシオンに向てうの路を問ひ來れ我らい永遠わすることなき契約をもてエホバにつらおらんといふべし○
六 我民い迷へる羊の群なりうの牧者之をいざなひて山にふみ迷はしめたれば山より岡とゆきめぐりて其休息所を忘れたり
七 之お遇ふもの皆之を食ふうの敵いへり我らい罪なし彼らエホバすなはち義きの在所うの先祖の望しところなるエホバに罪を犯したるなり
八 汝らバビロンのうちより逃よカルデア人の地より出よ群の前にゆくところの牡山羊のごとくせよ
九 視よわれ大ある國々より人を起しわつめて北の地よりバビロンお攻め來らしめん彼ら之おむかひて備をたてん是すなはち取るべし彼らの矢い空く返らざる狡き勇士の矢のごとくおるべし
十 カルデアい人に掠められん之を掠むる者い皆飽ことをえんとエホバ曰たまふ
十一 我產業を掠る者よ汝らい喜び樂み穀物を碾す犢のごとくに躍り牡馬のごとく嘶けども
十二 汝らの母い痛く辱められん汝らを生しものい恥べし視よ國々の中の終末の者荒野となり燥ける地

ウ 耶廿五〇十二
オ 耶四十九〇十七

とおり沙漠とならん　十三 エホバの怒りのために之に住む者おくして悉く荒地となるべし　バビロンを過る者
ノ 耶四十九〇廿五、五十〇廿
九
オ 耶五十〇九、五十一〇二
ク 代上廿九〇廿四、代下廿〇
八、哀五〇六、詩十七〇十
八
ヤ 耶五十一〇五十八
マ 耶五十一〇六、十一
ケ 詩百廿七〇八、耶五十〇廿
九
フ 哀十三〇十四、耶五十一〇
九
コ 耶五十〇六
エ 耶二〇十五
テ 王下十七〇六
ア 王下廿四〇十、十四
サ 哀六十五〇十、耶廿三〇十
二、結廿四〇十三、十四

は皆驚き且嗤はん〇 十四 凡ろ弓を張る者よバビロンの四周に備をなして攻め矢を惜ずして之を射
よ　ろう彼エホバに罪を犯したれば　十五 ろの四周に喊き叫びて攻めかゝれ是手を伸ぶろの城堞ろ倒れろ
の石垣ろ崩る是エホバ仇を復したまふなり汝らこれに仇を復せ是の行ひしごとく是に行へ　十六 播種者かよ
び穡收時に鎌を執る者をバビロンに絶せろの滅すところの劍を怖て人あの〳〵其民に歸り各ろの故土に
逃べし〇 十七 イスラエルろ散されたる羊にして獅子之を追ふ初にアッスリヤの王之を食ひ後にこのバビロ
ンの王ヂブカデヅザルろの骨を碎けり　十八 この故に萬軍のエホバイスラエルの神かくいひたまふ視よわれ
アッスリヤの王を罰せしごとくバビロンの王とろの地を罰せん　十九 われイスラエルを再びろの牧場に歸さ
ん彼カルメルとバシヤンの上に草をくらはんまたエフライムとギレアデの山にてろの心を飽すべし　二十 エ
ホバいひたまふ其日ろの時にはイスラエルの愆を尋るも有ず又ユダの罪を尋るも遇じろはわれ我存せ
しところの者を赦すべければなり〇 二一 エホバいひたまふ汝ら上りて悖れる國罰を受べき民を攻めろの後
より之を荒し全くこれを滅せ我汝らに命せしごとく行ふべし　二二 ろの地ゐ戰鬪の咷と大なる敗壞あり　二三 嗚
呼全地を擂きし鎚折れ碎くるかゐ嗚呼バビロン國々の中に荒地となるかな〇 二四 バビロンよわれ汝をと
るために罟を置けり汝わ攖へらるれども知ず汝エホバに敵せしにより尋られて獲へらるゝあり　二五 エホバ庫
を啓きてろの怒りの武器をいだしたまふ是主なる萬軍のエホバカルデア人の地ゐ事をなさんとをたまへ
ばなり　二六 汝ら終の者にいたるまで來りてこれを攻めろの庫を啓き之を積て塵垤のごとくせよ盡くこれを
滅して其處に還る者なからしめよ　二七 ろの牡牛を悉く殺せこれを屠場にくだらしめよ其等わ禍なるかな其

ス 耶四十八〇四十四、五十〇
卅一
イ 耶五十一〇十、十一
ロ 耶五十〇十四
ハ 耶五十〇十五、耶五十一〇
五十六、哀十八〇六
ニ 哀四十七〇十
ホ 耶四十九〇廿六、五十一〇
四
ヘ 耶五十〇廿七
ト 耶五十〇十四
チ 詩十八〇八
リ 哀四十七〇四
メ 但五〇卅
ル 哀四十七〇十三
テ 哀四十四〇廿五、耶四十八
〇卅
ワ 耶五十〇廿五、廿六
カ 耶五十一〇卅、結三〇十三
ヨ 哀四十四〇廿七、耶五十一
〇廿二、卅六、哀十六〇十
タ 耶五十〇二、耶五十一〇
四、十四、十七、五十二
レ 哀十三〇廿一、廿二、廿四
〇十四、二〇
ソ 哀十三〇廿、耶廿五〇十二
ツ 劍十九〇廿五、哀十三〇十
一〇廿六
子 耶五十〇九、耶六〇廿二、
廿五〇十四、五十二〇廿七
ナ 耶六〇廿三
ラ 耶五〇廿八
ム 哀五〇廿

日ろの罰を受べき時來れり　二八 バビロンの地より逃げて遁れ來し者の聲ありて我らの神エホバの仇復ろの
殿の仇復をシオンに宣ぶ〇 二九 射者をバビロンに召集めよ凡ろ弓を張る者よろの四周に陣どりて之を攻め
何人をも逃す勿れろの作爲ゐ循て之に報いろのすべて行ひしごとくこれに行へろゐ彼イスラエルの聖者
なるエホバにむかひて驕りたれば　三十 是故にろの日壯者ゐ衢ゐ踣れろの兵卒ゐ悉く絕されんとエホバ
いひたまふ　三一 主なる萬軍のエホバいひたまふ驕傲者よ視よわれ汝の敵となる汝の日わが汝を罰する時き
たれり　三二 驕傲者ゐ蹶きて仆れん之を扶け起す者おかるべしわれ火をろの諸邑に燃しろの四周の者を燒盡
さん〇 三三 萬軍のエホバかくいひたまふイスラエルの民とユダの民ゐ偕に虐げらる彼らを擄にせし者ゐ皆
固くこれを守て釋たざるあり　三四 彼らを贖ふ者ゐ強しろの名ゐ萬軍のエホバあり彼必ずろの訴を理して
の地に安を與へバビロンに住る者を戰慄しめたまはん　三五 エホバいひたまふカルデア人の上バビロンの住
る者の上およびろの牧伯等とろの智者等の上に劍あり　三六 劍僞る者の上にあり彼ら愚なる者とおらん劍
ろの勇士の上にあり彼ら懼れん　三七 劍ろの馬の上にあり其車の上にあり又ろの中にあるすべての援兵の上
にあり彼ら婦女のごとくにおらん劍ろの寶の上にあり是掠められるべし　三八 ひでり
ゐ偶像の地にして人々偶像に迷へばなり　三九 是故に野の獸彼處に山犬と偕に居り鴕鳥も彼處に棲べし何時
までも其地に住む人なく世々こゝに住む人なかるべし　四十 エホバいひたまふ神のソドムゴモラとろの近隣
の邑々を滅せしごとく彼處に住む人なく彼處に宿る人の子おかるべし〇 四一 視よ北の方より民きたるあら
ん大なる國の人とおほくの王たち地の極より起らん　四二 彼らゐ弓と槍をとる、情おく矜恤なしろの聲ゐ海
のごとくに鳴る、バビロンの女よ彼らゐ馬に乘り戰士のごとくに備へて汝を攻ん　バビロンの王ろの風

ウ 耶四十九〇廿四
井 耶四十九〇十九

ノ 伯四十一〇十 耶四十九〇十九

オ 賽十四〇廿四 耶五十一〇十一

ク 詩十八〇九

イ 王下十九〇七 耶四〇十一

ロ 耶十五〇七
ハ 耶五十〇十四

ニ 耶五十〇十四

ホ 耶五十〇廿一 耶四十九〇廿六、五十〇 世卅七

ト 耶五十〇八 詩十八〇四
チ 耶五十〇十五、廿八
リ 耶五十〇十四
ヌ 詩十七〇四
ル 耶廿五〇十六
ヲ 賽廿一〇九 詩十四〇八、十八〇二
カ 耶四十八〇廿 詩十八〇
ヨ 耶四十九〇十一、九十二〇十九
タ 箴十三〇十四 耶五十〇十
レ 詩十八〇五
ソ 詩卅七〇六 ツ 耶五十〇廿八
子 耶四十六〇四
ナ 賽十三〇十七 耶五十一〇
ラ 廿八 耶五十〇四十五
ム 耶五十〇廿八

聲をきゝしかば其手弱り苦痛と子を產む婦の如き劬勞彼に迫る　四四 視よ敵獅子のヨルダンの叢より上るが如く堅き宅に攻めきたらんわれ直に彼等を其處より逐奔らせわが選たる者をうの上に立ん誰か我のごとき者あらんや誰かわが爲に時期を定めんや何の牧者か我前に立ことをえん　四五 されババビロンにつきてエホバの謀りたまひし御謀とカルデア人の地につきて思ひたまひし思想をきけ群の弱者必ず曳ゆかれん　四六 彼必ずかれらの住居を滅すべし　バビロンハ取れたりとの聲によりて地震ひ萬の號咷國々の中に聞ゆ

第五十一章

一 エホバかくいひたまふ視よわれ滅すところの風を起してバビロンを攻め我に悖る者の中に住む者を攻べし　二 われ簸者をバビロンに遣さん彼らこれを簸てその地を空くせん彼らすべてうの禍の日にこれを四方より攻むべし　三 弓を張る者に向ひまた鎧を被て立わがる者に向ひて射者の者其弓を張ん汝らの壯者を憫まず其軍勢を悉く滅すべし　四 然バ殺さるゝ者カルデア人の地に踣れ刺るゝ者ろの街に踣れん　五 イスラエルとユダハうの神萬軍のエホバに棄られず彼らの地にハイスラエルの至聖者にかひて犯せるところの罪充つ　六 汝らバビロンのうちより逃げいでゝおのゝ〳〵其生命をすくへ其の罪のために滅さるゝ勿れ今ハエホバの仇をかへしたまふ時あれバ報をうれになしたまふあり　七 バビロンハ金の杯にしてエホバの手にあり諸の地を醉せたり國々うの酒を飲めり是をもて國々狂へり　八 バビロンハ忽ち踣れて壞る之がために哭けうの傷のために乳香をとれ是或ハ愈ん　九 われらバビロンを醫さんとすれども愈ず我らこれをすてゝ各うの國に歸るべしうハうの罰天におよび雲にいたれバあり　十 エホバわれらの義をあらはしたまふ來れシオンに於て我らの神エホバの作爲をのべん　十一 矢を磨ぎ楯を取れエホバメデア人の王等の心を激發したまふエホババビロンをせめんと謀り之を滅さんとまたまふ是エホバの復仇うの殿の復仇たるあり　十二 バビロンの石垣に向ひて纛を樹て圍を堅くし番兵を設け伏兵をうなへよ蓋エホババビロンに住る者をせめんとて謀りうの言しごとく行ひたまへゝをあり　十三 おほくの水の傍に住み多の財寶をもてる者よ汝の終汝の貪婪の限來れり　十四 萬軍のエホバおのれを指して誓ひいひたまふ我まことお人を蝗のごとくお汝の中に充ん彼ら汝に向ひて鯨波の聲を揚ぐべし　十五 エホバうの能力をもて地をつくり其智慧をもて世界を建てうの明哲をもて天を舒たまへり　十六 彼聲を發したまふ時ハ天お衆の水いづかれ雲を地の極より起らしめ電光と雨をおこし風をうの庫よりいだしたまふ　十七 すべての人ハ獸のごとくおして智慧あし諸の鑄物師ハうの作りし像のためお辱を取る其鑄るところの像ハ僞の者おしてうの中お靈なし　十八 其等ハ空しき者おして迷妄の工作なりわが臨むとき其等ハ滅べし　十九 ヤコブの分ハ此の如くならず彼ハ萬物およびうの產業れ族れ造化主おりうの名ハ萬軍のエホバといふ　二十 汝ハわが鎚おして戰の器具なりわれ汝をもて諸の邦を碎き汝をもて萬國を滅さん　二一 われ汝をもて馬とうの騎る者を擢き汝をもて車とうの御する者を碎かん　二二 われ汝をもて男と女をくだき汝をもて老たる者と幼き者をくだき汝をもて壯者と童女をくだくべし　二三 われ汝をもて牧者とうの群をくだき汝をもて農夫とうの軛を負ふ牛をくだき汝をもて方伯等と督宰等をくだかん　二四 汝らの目前にて我バビロンとカルデア人お住るすべての者がシオンにおせし諸の惡きことお報いんとエホバいひたまふ　二五 エホバ言たまはく全地を滅したる滅す山よ視よわれ汝の敵となるわれ手を汝の上お伸て汝を巖より轉ばし汝を焚山となすべし　二六 エホバいひたまふ人汝より石を取て隅石となすことおらじ亦汝より石を取りて基礎となすことおらじ汝ハいつまでも荒地となりをらん　二七 纛を地に樹て笛を國々に吹き國々を民をあつめて之を攻めアララテミンニアシケナズれ諸國を招き

ウ 箴二〇一三〇十四
井 箴十七〇二一十五

ノ 耶四十九〇十三 歷六〇八

オ 箴三〇十五
ク 耶五十〇十五
ヤ 創一〇一八、耶一〇十二
マ 伯九八、詩百四〇二 賽四十二
ケ 耶十世二
フ 詩百廿五〇七
コ 耶十〇十四

エ 耶五十〇二
テ 耶十〇十五

ア 耶十〇十六

サ 賽十〇五、十五 耶五十〇廿三

キ 代下卅六〇十七

ユ 耶五十〇十五、廿九

メ 賽十三〇二 西四〇七

ミ 箴八〇八

シ 耶五十〇四十

ヱ 賽十三〇二
ヒ 耶五十〇十四
モ 耶五十〇四十一